

こどもの城 ニュース

KODOMO NO SHIRO
NEWS



2011・5・1 No. 229 発行 / [こどもの城] 広報課 ☎ 03-3797-5674
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-1
http://www.kodomo-no-shiro.jp



ハロルド・E・エジャートン 走る子ども 1939年
「こどもの情景—こどもを撮る技術」展(7月16日~9月19日開催)より

いままで人間の目では見ることができなかった、とても速い動きを写真にとった人が、アメリカ人のハロルド・E・エジャートンさんです。エジャートンさんは科学者で、キセノンフラッシュという機械を発明し、「ストロボ写真」を有名にしました。その機械で瞬間的なせん光を続けて照し、一瞬の動きを連続して切り取ったのです。

「電球を通りぬけるピストルのたま」や「ラグビーボールがひしゃげる瞬間」などを見た彼はどう思ったでしょうか。もっともっと見たい! という気持ちが出てきました。

コレクション展「こどもの情景」を三部構成で開催。
「戦争とこどもたち」(5月14日~7月10日)
「こどもを撮る技術」(7月16日~9月19日)
「原風景を求めて」(9月24日~12月4日)

写真のこどもたち
東京都写真美術館
所蔵作品から



5月5日から始まる「児童福祉週間」をひかえて、こいのぼりをあげる集い「こいのぼりがいっぱい~みんなでゲンキに!」が、4月17日に「こどもの城」ピロティで行われました。実施主体は、厚生労働省、(財)こども未来財団、「こどもの城」。協力は、日本鯉のぼり協会、(財)児童健全育成推進財団、全国地域活動連絡協議会、みらい子育てネット東京。

集いには、厚生労働省の小宮山副大臣、横綱・白鵬関が出席。招待された、都内で避難生活を送っている子どもたちとご家族約50人と一しょに、5ひきの大きなこいのぼりをあげました。「こいのぼりがいっぱい」の完成です。先頭の吹き流しには、「こどもの城」に来館したみなさんから、東日本大震災で被害にあわれたみなさんへの応援メッセージが書き込まれています。

100ぴきになったこいのぼりは、みんなの「元気」をもって、被災者のみなさんが一日でも早く元気になれるようにと、5月29日まであがっています。

「こいのぼりがいっぱい~みんなでゲンキに!」4月17日ピロティ
小宮山副大臣、横綱・白鵬関と都内で避難生活を送っている子どもたちが力をあわせてこいのぼりをあげました

〈あそび〉で元気 子どもの〈元気〉が明日への力

3月11日の東日本大震災によって、たくさんの方が避難生活をおくらなければならなくなったり、多くの工場が被災してものが作れなくなったり、節電のために営業時間を短縮しなければならなくなったり、社会全体が「元気」を失いかけています。こんなときにこそ、子どもたちの「元気」が社会全体のエネルギーとなって、明日への力へとつながるのではないのでしょうか。

子どもたちの「元気」のものは「あそび」。夢中になって遊ぶことで、気持ちをリフレッシュ。元気をとりもどします。大きな声をだして遊ぶだけで、気分がすっきりすることもあります。道具がなくても、特別な場所でもなくても、仲間さえいればいろいろな「あそび」ができます。「元気」に遊ぶことが、つぎの「元気」を生み出して、周りの大人も「元気」になります。

子どもたちの豊かな表情が、みんなの〈元気〉に

千年に一度といわれる大災害——直接被災された人々はもとより、多くの人の心にもなにかしらの「不安」をもたらしました。大人の「不安」「きんちょう」「落ち着きのなさ」などは、自然に子どもたちに伝わり、子どもたちの「元気」もしぼんでいきます。

子どもたちが「元気」になって、その「元気」を大人がもらうためには、子どもたちの「元気」をとりもどすことが大切です。そこには、大人の力が必要です。子どもたちの「元気」を引き出すのです。

空想の世界で遊んだり、人とふれあったり、自分の力を試したり、自分の好きなことをしたり——「あそび」のなかから「元気」が生まれてきます。楽しそうな笑顔、夢中になって口をとんがらせている顔、なにかをなして嬉しそうなお顔、くやしそうな顔——子どもたちの豊かな表情が、みんなの「元気」につながります。



手や指を使った〈あそび〉もたくさんあります

〈あそび〉は、仲間さえいれば、いつでもどこでもできます。小学校高学年ぐらいの子どもたちは、ちょっとした時間を利用して「ゆびスマ」をしています。グーにした両手を前にだして、合図にあわせて立てた親指の数(合計)をあてるゲームです。あたったら手をひっこめます。はやく両手をひっこめられた人が勝ちです。「いっせーの、せ」とか、「ちゅちゅち」とか、いろいろな呼び方があります。合図が遊びの名前になっているようです。

手や指を使った遊びはたくさんあります。お父さんお母さんの世代、おじいちゃんおばあちゃんの世代では、ちがう遊び方をしていたかもしれません。名前はちがっても、同じ遊びだったということもあるかもしれません。世代間で情報を交換するとおもしろいかもしれません。

私鉄沿線のふみ切りが近くにある公園で、子どもたちがしていた鬼ごっこは、ふみ切りの警報音になるたびに、事前に決めた順番で鬼がこうたいするというものでした。チンチンチンという、ふみ切りの音を遊びに生かしたのです。



おじいちゃん、おばあちゃん世代に〈あそび〉教わる

ゲーム機などの遊びの道具が少なかったころは、どうやって遊んでいたのでしょうか。おじいちゃんおばあちゃんの世代の人に聞くと、「せっせっせ」「ちゃちゃつぼちゃつぼ」「はないちもんめ」「かごめかごめ」などの遊びを教えられるかもしれません。室内で遊べるものもあれば、外で遊ぶものもあります。

共通するのは、歌を歌いながら遊ぶということと、特別な遊びの道具を使わないこと。「あそび」と歌(音楽)が結びついていました。今の音楽にくらべると、ゆったりとしています。歩いたりする体の動きに適したテンポです。

ボールがあれば、いろいろなてまり歌も教えられると思います。「あんたがたどこさ」は、「さ」のところでゴムまりをまたぎます。「さ」が何回も出てくるこの歌は、いろいろと応用できます。

ウーんと背のびするだけでもすっきりした気分

ウーんと、背のびをするとすっきりした気分になります。『こどもの城ニュース』(2011年1月1日号:第225号)で紹介したように、たがいの手首をにぎりあってひっぱりっこをする「人間つな引き」や、うつぶせに寝ている相手をひっくりかえす「かめおこし」など、いろいろな遊びがあります。

うつぶせに寝ている人の上を、ローラーのようにまっすぐに体をのぼして、足先から頭の上までころがっていく遊びもあります。でこぼこした体の上をまっすぐ転が



っていくのは、かんたんなようで意外に難しいようです。うまく転がってもらえると、寝ている人はマッサージされた気分になります。

道具を使わないで、みんなで楽しめる遊びに「人間ちえの輪」があります。両手をつないだまま、つないだ手の下をくぐったり、またいだりして内側に向いていた輪が外側向きの輪になる遊びです。こんがらがった形をほどこしてもらって、同じ形になってもうなどアレンジすることもできます。

両手をつなぐと、こんな遊びもできます。両手をつないで並び、つないだ自分の右手を右足でまたいで、またの下で後ろの人とつながります。そのまま歩いてもおもしろいし、最後尾の人から順に手をつないだまま前の人のまたをくぐって、もとの両手をつないだ形にもどる遊び方もあります。全員の協力が必要。全身を使う運動になります。

大人が〈あそび〉のきっかけを

子どもたちを「元気」にする「あそび」は、いつでもどこでも作り出すことができます。新聞紙、タオル、ロープなど、身近にあるものを使

平成23年度 児童福祉週間標語 **おいでおいでみんなと一緒に遊ぼうよ**

児童福祉施設給食用

スキムミルク

スキムミルクはこんなすぐれています。



子どもの発育に欠かせないたんぱく質、ビタミンB2を多く含んでいます。

不足しやすいカルシウムが多く、消化吸収がよいものです。



保存性が高く、飲料・料理に幅広く利用できます。



イラスト:ナシエ



子どもたちの健康づくりに

スキムミルク(脱脂粉乳)は、牛乳から脂肪分(バター)を取り除いてつくります。スキムミルクの大きな特徴は、乳脂肪が極めて少なく、低脂肪、低エネルギーであることから、飲用にも料理にも様々なお菓子づくりなどにも幅広く活用していただけます。

さらに、良質なたんぱく質、カルシウム、ビタミンB2など成長や健康に欠かせない栄養素がたくさん含まれているのも特徴です。

スキムミルクは、動物性脂肪をほとんど含んでいないので、生活習慣病予防に役立つ健康食品としても高く評価されています。

大人だけではなく子どもにも生活習慣病が増えている今こそ、低脂肪、低エネルギーのスキムミルクを上手に給食に取り入れ、子どもたちの健康づくりに役立ててください。

お申し込み 問い合わせ **TEL 03-3797-5567**
財団法人 児童育成協会 児童給食事業部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1 FAX 03-3797-0017
ニュージーランドの良質な牛乳から作った「スキムミルク」を無税で輸入することにより、全国の児童福祉施設に低価格で提供しています。

